



発行所 © 城南新報
〒611-0021 宇治市宇治里尻
TEL (0774)24-1221
FAX (0774)22-5754
E-mail jshinpou@ybb.ne.jp

きょうから 濁水期

塔の島地区の改修再開は...

事故受け宇治市などに説明へ

淀川河川事務所 榎島掘削「月内着手」希望

天ヶ瀬ダム放流能力を毎秒9000tから15000tに拡大するため、国交省近畿地方整備局淀川河川事務所が15年度の完成を目指して今年1月に着手した「塔の島地区改修事業」...

塔の島地区改修事業は1500t放流に耐えられるように導水管や締切堤の撤去、右岸の護岸セットバック、道路の嵩上げを実施するほか、宇治橋下流の榎島地区塔の島周辺などで河床を最大40cm掘削、橋島と塔の島も「中洲と河原

(川原)の姿とたまたまの再生をイメージして整備することにしており、15年度末を全体工事の完了目標に掲げている。今年1月に起工式を行い、関係者が工事の安全を願ったが、塔の島上流域で実施していた河床掘削工事において、仮設締切堤の土のうが流失する事故が2月末に発生、榎島地区掘削でも土のうが流出し、撤去までに時間を要したため、春の観光シーズンを迎えても無残な姿を観光客にさらした。

原因究明を求める宇治市に対して、同事務所は▽土堤部に必要な高さがなく、仮締切の構造として不完全▽ピラミッド形式でなく直積みでの土のう積み上げなど詳細設計、工事発注、工事施工、工事監督の各段階で人為的ミスが重なったことを原因

ととして列挙。詳細設計から工事発注段階での二重チェックの実施、施工上の配慮事項の設計図書への記載などを再発防止策として挙げた。その上で工事再開にあたっては、市及び関係各機関の意向を踏まえ、早期に説明を行い、合意を得られてから実施と明記。8月初旬の市議会建設水道常任委員会でも川端修副市長は「我々が『うん』と言うまで再開させない、その判断基準を作りたいたい」と述べ、具体的な説明のないまま、河川内の工事が可能となる濁水期(10月16日〜6月15日)を迎えた。

今後の予定について同事務所は近々、宇治市など関係機関に説明を行い、理解を得て、昨年度に発注契約が済んでいる宇治橋下流の榎島地域右岸側の掘削工事に今月中をメドに着手したい。秋の観光シーズンであることを踏まえ、まずは測量などを進め、土のうなどを積み上げるのは12月以降にしたいと説明した。塔の島上流域の河床掘削に関しては近畿地方整備局ホームページで発注見通しとして、入札予定時期を「第3四半期10〜12月」「二期約5カ月」と公表。この点に関して同事務所は今年度に着手できるか未定。遅れた場合、春の観光シーズンの兼ね合いで債務負担行為を設定し、時期をズラして対応すると話している。市をはじめ、観光協会などが同事務所の説明を了承できるのか、工事再開が遅れば遅れるほど「必要不可欠な事業」を位置付けている宇治川改修事業そのものの遅延の可能性が出てくるだけに、再発防止策をどこまで徹底できるのか注目される。